

4 塩類濃度障害・ガス障害

4-1 EC値と硝酸含有量（NO₃-N）の計算事例

砂 土			沖 積 土			火 山 灰 土		
EC	NO ₃ -N	NO ₃ -N 残存量	EC	NO ₃ -N	NO ₃ -N 残存量	EC	NO ₃ -N	NO ₃ -N 残存量
dS/m	mg/100g	kg/10a	dS/m	mg/100g	kg/10a	dS/m	mg/100g	kg/10a
0.3	5	8	0.5	10	14	0.5	10	11
0.8	10	17	1.0	20	27	0.7	20	21
1.2	20	33	1.5	30	41	1.0	30	32
1.5	30	50	2.0	40	54	1.3	40	42

注) 窒素の残存量はNO₃-N含量から土壌の仮比重を砂土1.1、沖積土0.9、火山灰土0.7とし、深さ15cmの場合について計算した。

4-2 塩類濃度に対する野菜の抵抗性

抵抗性	強 ←————— 中 —————→ 弱
野菜の種類	タキだほはかせなねにとピきそたいれいみつ アヤいうくぶるすぎんま「ゆらまんたちつ のサベこれさりじトマうまねげスごば 種イツんんい「んンりめぎん 類 そ う

4-3 ハウス露滴pHによる障害ガスの推定

露滴pH	判断
7.0 以上	アンモニアガスが優勢に発生している。
7.0~6.2	ガスの発生がないか又は亜硝酸ガスとアンモニアガスがほぼ同量発生している。被害なし。
6.2~5.6	亜硝酸ガスが発生している。警戒体勢に入る。
5.6~4.6	作物の抵抗性が弱い場合に亜硝酸ガスの障害が出るおそれあり。換気やガスの発生を抑える対策を講ずる。
4.6 以下	ほとんどの場合で亜硝酸ガスの障害が出るおそれあり。